

大混戦1敗で7力士

紙相撲新聞

第161回本場所
中日～七日目

編集・発行
日本紙相撲協会

千代鈴と大神楽に土がつき

1敗で7力士が並ぶ大混戦に

〔第百六十一回本場所中日～七日目〕

2月18日に第161回本場所中日と七日目が開催され、全勝が消えて、横綱千代鈴、大関大神楽、関脇四季嶋、関脇綱乃花、関脇西神門と平幕の龍不動、若柱の7人が6勝1敗で優勝争いの先頭に並んだ。

残り4日だが、1敗の上位5人が直接対決で優勝を争う最高に面白い展開となってきた。とはいえ、上位5人がお互いにつぶし合うようなことになれば、平幕の2人にも優勝のチャンスが出てくる。



↑今場所も安定の取り口で6連勝の大神楽だったが、七日目に攻め込みながらも西神門の引き技に苦杯。先場所も同じ七日目に喜乃郷に同じ取り口↑で敗れており、七日目が鬼門か。

↓七日目の千代鈴は出足冴えず、調子の上がらない鉄甲を寄せずにまさかの黒星。千代鈴の唯一の弱点が露呈した形だ。



五日目を終えて、5戦全勝は横綱千代鈴、大関大神楽、関脇四季嶋、平幕の若佑、若柱の5人という状況だった。

中日の一番の注目組は、ここまでの全勝の四季嶋と先場所優勝の1敗の西神門の関脇対決。

ともに負けられない一番は、西神門が四季嶋のお株



四季嶋●(押し倒し)○西神門

を奪うような強烈など輪で押し倒し。関脇対決を制して全勝の四季嶋を引きずり降ろした。

一敗
千代鈴、大神楽、四季嶋
綱乃花、西神門、龍不動
若柱

中日は、若佑が龍不動に、若柱が雪若丸に敗れて平幕の全勝力士が消え、中日を終えた時点で、6戦全勝は千代鈴と大神楽のみとなった。

これを関脇四季嶋、関脇綱乃花、関脇西神門、平幕の磯自慢、鹿富士、龍不動、若佑、若柱の8人が追う展開に変わった。

横綱を狙う大神楽はここまで順調に白星を重ねて無傷での勝ち越し。このまま横綱昇進に向けて星を伸ばしたい。このまま星を落とさずに行っ



龍不動○(寄り切り)●若佑



千代鈴○(寄り切り)●白閃光



大神楽○(寄り切り)●宇治家

七日目には難敵の西神門との対戦だけにこれに弾みをつけたところだ。

てくれ」と祈る磯ノ海親方。

迎えた七日目。平幕の1敗勢で勝ったのは龍不動と若柱の2人。

龍不動は大渡海を寄り切り、若柱は同じく1敗の鹿富士を寄り切りに破った。

場所前の好調さそのままに初日から5連勝を飾った若佑だったが、中日に龍不動に敗れると、七日目はこちらも場所前好調だった鬼ヶ嶽に引き落としとして敗れて2敗目を喫した。



鬼ヶ嶽○(引き落とし)●若佑

七日目の注目は何と言っても大関大神楽と関脇西神門の対戦。今場所の優勝争いの鍵を握る中盤戦の一番と言っても過言ではない。これまでの対戦成績では大神楽が3勝としているが、めきめき力をつけてきた西神門とはほぼ互角と言ってもいい。

注目の一番、立合いは互角だったが、そこから前へ出る西神門を大神楽が左に回りながら残し、得意の左を差す体勢になったもの足がついていかずに西神門に引き落とされた。「ついた！ついた！」と大神楽が先に土俵に上がったと審判員の親方からの声。「あー！」とため息の磯ノ海親方。千秋楽の横綱千代鈴との対決まで全勝で行きたかった大神楽だが、七日目に今場所初めての土がついた。



鹿富士●(寄り切り)○若柱



龍不動○(叩き込み)●大渡海